

戦争にそまった日本

日本は近代になり、日清戦争(1894年)、日露戦争(1904年)、第一次世界大戦(1914年)と戦争ばかりしていた時代が続いた。昭和に入っても、日中戦争(1937年)が長引き、ついに太平洋戦争へとつづ入ってしまった。



1941年12月8日、陸軍省記者クラブで、戦争がはじまったことが発表された。

<日本がこうげきを開始した>

日中戦争(→p.115)を終えられない日本は、イギリス、アメリカとの関係が悪くなっていた。日本への石油輸出の禁止などの経済制裁が行われ、それに反発するかたちで1941(昭和16)年12月8日、日本軍はイギリス、アメリカを相手に戦争をしかけた。陸軍はイギリスの植民地だったマレー半島に上陸し、海軍はハワイの真珠湾をこうげきした。



日本軍のこうげきで炎上するアメリカ軍の戦艦「アリゾナ」。

日本は当初、イギリス、アメリカと戦争をしないという交渉をしていたが、交渉はゆきづまり、こうげきをはじめてしまった。



この戦争は太平洋戦争とよばれるんだ。

日本からのこうげきを受けたアメリカ軍の施設。



拡大していった戦争

各国の関係が激しく変化していった。ヨーロッパの主要な国は他国を占領して勢力をのばそうとし、利害関係のある国同士、条約を結んで力関係を保とうとしていた。ソ連と共にポーランドを分割して占領することになったドイツと、それを阻止しようとするイギリス・フランスが対立し、第二次世界大戦がはじまった。日本はドイツ・イタリアと同盟を結んだ。ドイツがソ連と争うと、アメリカ・イギリスはソ連を支援するようになった。そして日本はアメリカと戦争することになった。ヨーロッパ、アジアの別々の戦争が1つになり拡大した。



陸軍大臣の東条英機(1列目中央)が1941(昭和16)年10月に首相になったときの内閣。この内閣がイギリス、アメリカと戦争することを決めた。

日本は、これは自分たちを守るための戦争だと国民に説明したそうよ。



戦争中の人々の暮らし

社会も人々の暮らしも戦争中心となった。政治もこれまでであった政党が次々と解散し、首相をトップにした「大政翼賛会」というしくみがつくられた。町内会の下に隣近所の10軒あまりを「隣組」という組織にまとめ、日本国民を、戦争へ総動員するしくみに変わっていった。

●金属回収

武器をつくるために、あらゆる金属が少しでも回収された。写真は、金属回収のため、中央区の銀座通りの街路灯を取り外しているところ。



●千人針

無事に帰ってくるのをいって、千人の人が赤い糸で一針ずつぬった布を戦争へ行く人におまもりとして渡した。



●みんなで戦争に協力

こうげきをさけるための訓練が行われたり、町のあちこちに防空壕がつくられたりした。男性が軍隊へ集められたため、働き手がたりなくなり、女性や高齢者もかり出された。



ひなん用につくられた防空壕。



女性もみんなで団結して、戦争一色の生活となった。

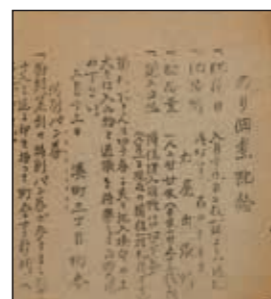


佃煮まで配給～。

●配給制度

武器をつくるのが最優先となったので、もの不足となった。生活必需品や食料も配給された分だけしか買えなかった。

のりの佃煮の配給を伝える通知書。



隣組で消火の訓練を行った。

●学童そかい



都会はアメリカ軍からのこうげきを受けるため、子どもたちは集団で地方や農村にひなんさせられた。写真はひなん先に向かう子どもたち。ひなん先では勉強するだけではなく、やさいなど食べるものをつくった。



このころの学校は、国民学校と名前が変わった。教育も戦争中心の内容へと変わった。

子どもたちもみんなでジャガイモをつくった(宇佐美学園)。



助かった麒麟像

1911(明治44)年に日本橋の改築のときに、日本の道路の出発点という意味をこめて、飛び立つイメージの想像上の動物麒麟像が、中央の柱に置かれた。この麒麟像も金属回収のため取り外されたが、

処理される直前で戦争が終わって助かった。今でも健在だ。



よかったね!

